

第64期第2四半期 HIRATA REPORT

平成26年4月1日～平成26年9月30日



平田機工株式会社

株主の皆様へ

代表取締役社長 平田 雄一郎



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第64期第2四半期累計期間(平成26年4月1日～平成26年9月30日)の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く経済情勢は、欧米の緩やかな景気回復が継続しておりますが、米国の金融緩和縮小の影響や欧州の債務問題などで不透明感は払拭できない状況でありました。また、中国などの新興国経済は、成長の鈍化や地政学的リスクなどによる景気の下振れが懸念される中で推移しました。一方、国内は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が長引いておりますが、政府の経済・金融政策などにより、円安・株高が進み、景気は緩やかな回復基調が続いております。

また、企業の設備投資につきましては、回復の兆しが見られるものの、新規投資においては慎重な姿勢が続いており、本格的な回復には至っておりません。

このような経営環境のもと、当社グループにおきましては、積極的な事業拡大のためにグループ内の連携を深め、営業強化、受注拡大、現地調達・生産量の最適化など市場の変化に柔軟に対応したグローバルな生産供給体制の構築、国内における生産効率および内製化率の向上を図ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は208億65百万円(前年同期比6.2%減)となり、営業利益は8億42百万円(前年同期比1.0%増)、経常利益は8億18百万円(前年同期比5.3%増)、四半期純利益は4億52百万円(前年同期比9.9%減)となりました。

通期業績の見込みについて

当第2四半期連結累計期間の業績が期初予想を上回る結果となり、第3四半期以降も期初の想定以上の業績を計上する見込みとなったことから、通期業績予想の上方修正を発表いたしました。

通期の連結売上高につきましては、子会社の売上高増加および個別の下半期生産高の大幅増加が予想され、営業利益を11億円から12億円、経常利益を10億円から11億円へと、それぞれ上方修正いたしました。

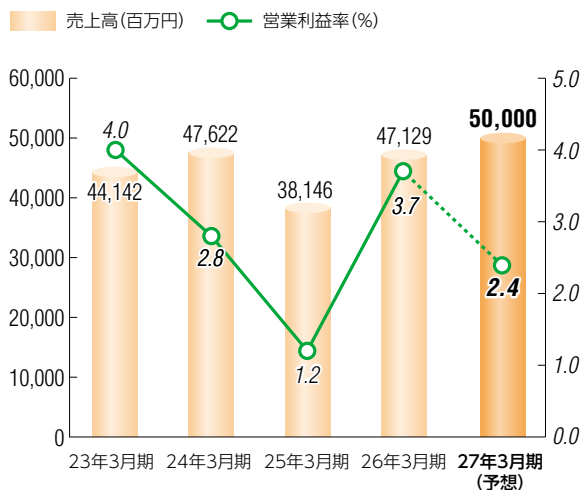
ただし、当期純利益につきましては、増益に伴う法人税などの増加により、前回発表予想並みの水準になるものと見込んでおります。

株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

■ 平成27年3月期 累計実績と通期業績予想(連結)

項目	第2四半期 累計実績	平成27年3月期予想
		通期
売上高	208億円	500億円
営業利益	8.4億円	12億円
経常利益	8.1億円	11億円
四半期(当期)純利益	4.5億円	6.5億円
1株あたり当期純利益	43.68円	62.70円
1株あたり配当金	0.00円	12.5円

■ 連結売上高・営業利益率推移



有機EL市場へ光矢を放つ

有機EL関連の研究受託・開発および製造・販売の「株式会社KOYA」を設立

コウヤ

8月7日、熊本県合志市に有機EL (OLED) 関連の研究受託・開発および製造・販売を行う100%出資子会社「株式会社KOYA (以下、KOYA)」を設立いたしました。

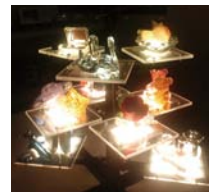
KOYAは、現在普及しているLED照明に続く次世代の照明として注目されている有機EL照明のパネルを主な製品としています。これは有機材料を発光体としており、人と地球に優しく、白熱電球、蛍光灯、LEDの良いところを併せ持った自然光に近い理想的な照明で同社では、ガラス基板から有機ELパネルまでを一貫で生産できます。将来的には、表は光って裏は透明で見通せるシースルー照明や曲面照明など、これまでにない新しい使い方が展開でき、幅広いシーンでの活躍が期待されます。

主な特長

- 1.面で照らし、影がでにくい
- 2.ブルーライトが少なく、目に優しい
- 3.太陽光に近く、自然な色を演出できる
- 4.軽くて薄く曲がる
- 5.低消費電力である
- 6.有害物質を含んでおらず、環境に優しい

例えばこんな場所、シーンで!

医療現場、レストラン、博物館、美術館などで活躍!近い将来、光る壁や光る服といったアニメーションのような光景が見られるかもしれません。



有機EL照明の事例

北米自動車「BIG 3」すべてと取引開始

Ford社のオートマチックトランスミッション関連の組立設備を受注

5月、フォード社 (Ford Motor Company) からのオートマチックトランスミッション (自動変速機) のサブ組立設備受注を発表いたしました。これまで小規模設備の納入はありましたが、今回のオートマチックトランスミッションのサブ組立設備などの大型受注は初めてです。

当社におけるGM社 (General Motors Corporation)、クライスラー社 (Chrysler Group LLC) の実績と納期を守るという評判に加え、当社独自のモジュール方式によるACS* (組立セルシステム) を用いた組立技術や現地法人を通じた顧客サポートなどが評価され、受注につながりました。今後も引き続き取引が増えるように信頼構築に努めます。

*ACS: 当社独自の「標準モジュールによる組立ラインシステム」。多機能な標準装置でラインを構成することにより、品種切り替えに対する柔軟性やコストパフォーマンス、省スペース、メンテナンス性などの面で優位性がある。



設備のイメージ

重労働からの解放、人手不足を補う

造船用 形状認識大型鋼板R面取りシステムの開発・販売のお知らせ

造船用の大型鋼板の形状を認識して両面のR面取りができるシステムを開発し、10月から販売開始いたしました。

船舶運航の安全性の向上および海洋環境保護のため、バラスタンクなどの海水の通り道にあたる鋼板端面すべてにおいてR面取りが必要と海軍法で定められています。従来、このR面取りは手作業であり、長時間の中腰姿勢による重労働でした。本製品は、最大で鋼板幅5メートル×長さ40メートルサイズの形状読み取りおよび表裏両面R面取りができ、作業時間、コストの削減だけでなく、安全性も兼ね備えたシステムとしてご提案できます。

主な特長

1.カメラによる鋼板の形状自動読み取りで作業が減り、効率アップ

カメラ（ビジョンシステム）により、鋼板の形状および加工部分を自動検知できるため、事前のデータ登録作業などは一切不要。さまざまな形の鋼板がランダムに流れてきても無人で連続加工運転ができます。

2.同じ方向から表裏のR面取り加工ができ、鋼板の反転不要

これまでは、大型鋼板をクレーンでつり上げて反転させる手間のかかる危険な作業がありました。本製品は、先端の工具を変えるだけで同じ方向から表裏両面のR面取りができ、鋼板の反転が不要です。

3.重労働からの解放と人手不足の補充

作業者が粉じん、長時間の中腰姿勢、重量物取扱いの危険作業などの重労働から解放され、かつ造船業界の人手不足も補うことができます。



システム構成はR面取りロボット、移載ロボット、ポジショナー、オートツールチェンジャーなどの7つ。カスタマイズ可

技術、納期、品質に高評価

ダイソン社から優良サプライヤーとして表彰

2014年6月11日、シンガポールにてダイソン社 (Dyson Ltd.) から優良サプライヤーとして表彰されました。



6月11日、シンガポールにてダイソン社 (Dyson Ltd.) から優良サプライヤーとして表彰されました。

ダイソン社は、2013年度からサプライヤーミーティングを開催しており、今年は、世界中のサプライヤーから同社の事業に多大な貢献をしたと認められた当社を含む4社が表彰されました。当社は、ダイソン社から掃除機のモーター生産設備を多数受注しており、それらの設備において技術力や納期対応、品質などが高く評価されました。表彰された4社のうち3社は、ダイソン社に掃除機などの製品の部品を納入している会社であり、生産設備を納入する会社は当社のみです。この栄誉に甘んじることなく、お客さまの期待に応えるものづくりを研鑽してまいります。

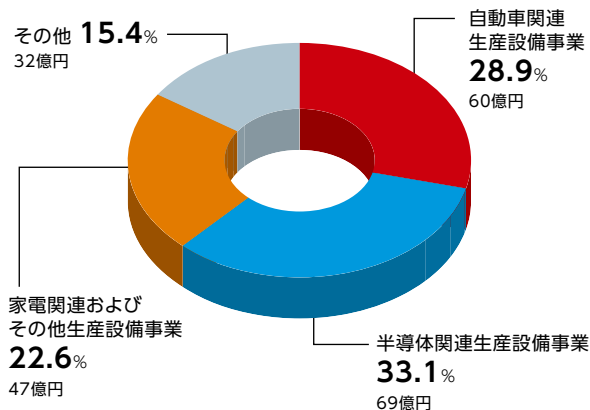


マクシミリアン コッツ
CEOであるMaximilian W. Conze氏と

事業部門別概況

当期売上高内訳

(平成26年4月1日～平成26年9月30日)



売上高

208億円

受注高

271億円

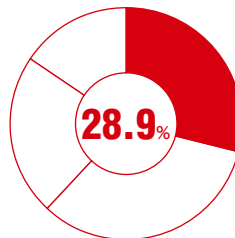
受注残高

225億円

当第2四半期の売上高の事業部門別構成比は、自動車関連が60億円で全体の約29%、半導体関連が69億円で約33%、家電関連その他が47億円で約23%となっています。

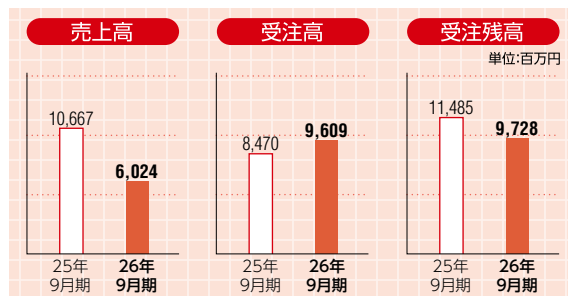
自動車関連生産設備事業

エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売



売上高 **60**億円

対前年同期増減率 Δ **43.5%**



第64期 第2四半期実績

自動車関連設備は、前年同期と比較し、大型案件の売上が少なく、前年同期比43.5%減の60億24百万円の売上高となりました。

下期の売上高は89億円を予想しており、通期では150億円を計上する見込みです。



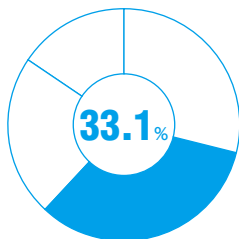
トランスミッション組立ライン



エンジンテスト機

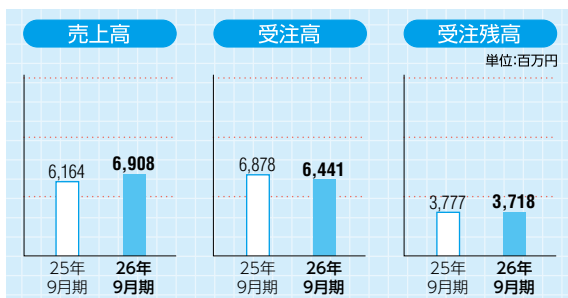
半導体関連生産設備事業

ロードポート、ウェーハ搬送ロボットなどの半導体関連生産設備、レジスト塗布装置などのFPD関連生産設備の製造・販売



売上高 **69** 億円

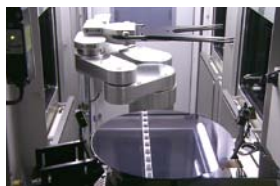
対前年同期
増減率 **+12.1%**



第64期 第2四半期実績

半導体関連設備は、製造受託案件に加え、国内外のデバイスメーカーおよび装置メーカー向けの売上などにより、前年同期比12.1%増の約69億8百万円の売上高となりました。

下期の売上高は70億円を予想しており、通期では140億円を計上する見込みです。



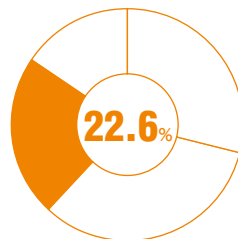
ウェーハ真空搬送ロボット



450mm EFEM/ソーター

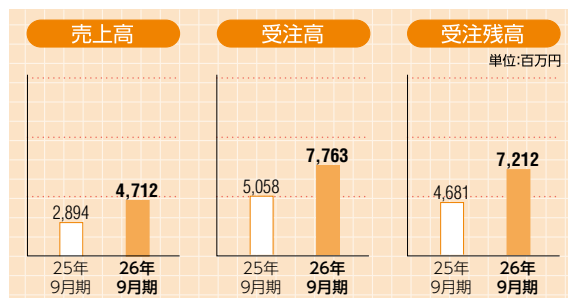
家電関連およびその他生産設備事業

家電関連分野では、テレビ、掃除機などの自動組立設備、その他生産設備分野では、タイヤ生産設備、自動倉庫システムなどを製造・販売



売上高 **47** 億円

対前年同期
増減率 **+62.8%**



第64期 第2四半期実績

家電関連およびその他は、掃除機の大型案件など白物家電を中心とした堅調な売上により、前年同期比62.8%増の47億12百万円の売上高となりました。

下期の売上高は、92億円を予想しており、通期では140億円を計上する見込みです。



造船用鋼板加工システム



モバイル機器組立装置 ACS-MD

連結財務諸表(要約)

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成26年3月31日)
【資産の部】			
流動資産	36,958	37,403	38,408
現金及び預金 …………… 1	7,374	9,213	8,569
受取手形及び売掛金 …… 2	21,320	18,895	22,181
商品及び製品	173	128	242
仕掛品 …………… 3	5,261	6,146	4,681
原材料及び貯蔵品	317	329	309
繰延税金資産	1,726	1,836	1,628
その他	786	865	806
貸倒引当金	△ 2	△ 10	△ 10
固定資産	19,762	19,615	19,943
有形固定資産	16,006	15,748	15,817
建物及び構築物	4,350	4,177	4,254
土地	9,750	9,760	9,768
その他	1,905	1,810	1,794
無形固定資産	251	399	412
投資その他の資産	3,504	3,467	3,713
資産合計	56,720	57,018	58,352

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成26年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成26年3月31日)
【負債の部】			
流動負債	26,147	24,381	26,952
支払手形及び買掛金	8,445	8,252	8,236
短期借入金	7,092	6,448	9,432
1年内返済予定の長期借入金 } 4	5,789	3,439	5,030
前受金	1,936	2,689	1,167
その他	2,883	3,550	3,085
固定負債	11,515	12,848	12,204
長期借入金 …………… 4	7,654	9,230	7,777
退職給付引当金	856	—	—
退職給付に係る負債	—	289	1,380
その他	3,004	3,328	3,046
負債合計	37,662	37,229	39,157
【純資産の部】			
株主資本	14,330	15,502	14,681
資本金	2,633	2,633	2,633
資本剰余金	2,322	2,322	2,322
利益剰余金	9,714	10,852	10,052
自己株式	△ 340	△ 306	△ 327
その他の包括利益累計額	4,561	4,068	4,305
少数株主持分	166	218	207
純資産合計	19,058	19,789	19,194
負債純資産合計	56,720	57,018	58,352

ポイント

1 現金及び預金

現金及び預金は、子会社の大口の売上債権回収が進んだ結果、前期末比6億44百万円の増加となりました。

2 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、債権回収により、前期末比32億86百万円の減少となりました。

3 仕掛品

仕掛品は、生産高の増加に伴う仕掛増加などにより、前期末比14億65百万円の増加となりました。

4 有利子負債

有利子負債は、売掛金の回収によって生じた余剰資金を返済に充てた結果、前期末比31億22百万円の増加となりました。

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自25.4.1至25.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自26.4.1至26.9.30)	前期 (自25.4.1至26.3.31)
売上高	22,236	20,865	47,129
売上原価	18,699	17,013	39,512
売上総利益	3,536	3,852	7,616
販売費及び一般管理費	2,702	3,010	5,892
営業利益	833	842	1,723
営業外収益	88	88	167
営業外費用	144	112	232
経常利益	776	818	1,658
特別利益	12	1	186
特別損失	1	1	204
税金等調整前四半期(当期)純利益	788	817	1,640
法人税等	304	343	794
少数株主利益	△ 18	21	5
四半期(当期)純利益	502	452	840

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自25.4.1至25.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自26.4.1至26.9.30)	前期 (自25.4.1至26.3.31)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,072	4,285	959
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 160	△ 265	△ 480
財務活動による キャッシュ・フロー	886	△ 3,292	2,387
現金及び現金同等物に 係る換算差額	171	△ 81	330
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,970	645	3,196
現金及び現金同等物の 期首残高	5,351	8,548	5,351
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	7,322	9,194	8,548

ポイント

5 売上高

半導体関連および家電関連その他では、売上増加により増収となったものの、自動車関連において大型案件の売上が少なく、売上高は、前年同期比6.2%減の208億65百万円となりました。

6 営業利益・経常利益

生産の効率化や内製化などの推進によりコスト削減ができた結果、営業利益は前年同期比1.0%増の8億42百万円、経常利益は前年同期比5.3%増の8億18百万円となりました。

7 四半期純利益

四半期純利益は、関係会社の増益による法人税の増加に伴い、前年同期比9.9%減の4億52百万円となりました。

8 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益8億17百万円に対し、売上債権の減少29億79百万円、たな卸資産の増加14億43百万円などにより、42億85百万円の収入となりました。

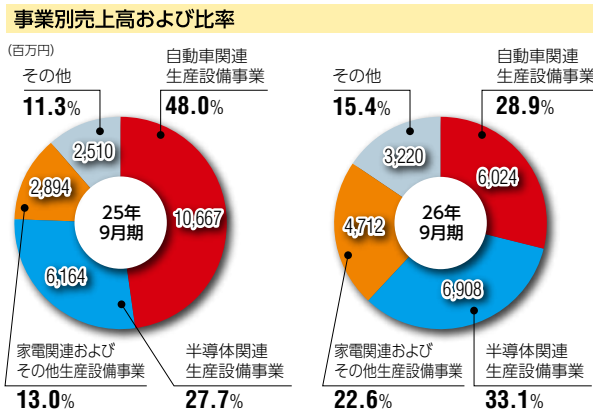
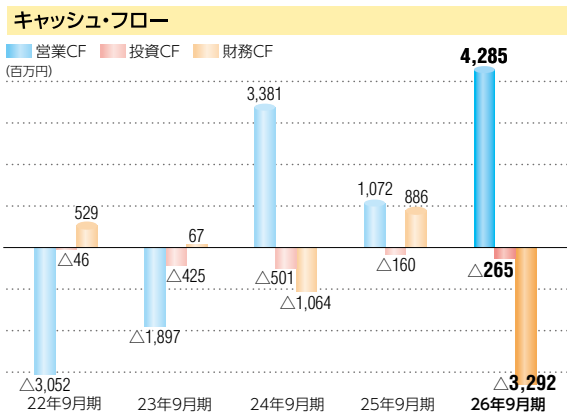
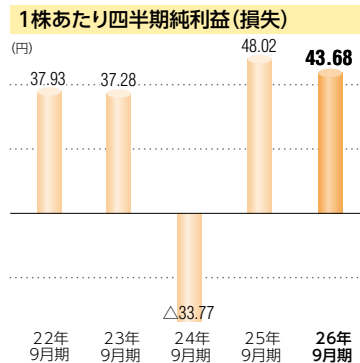
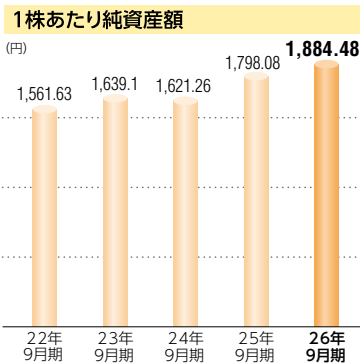
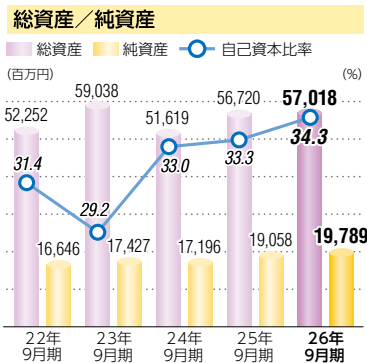
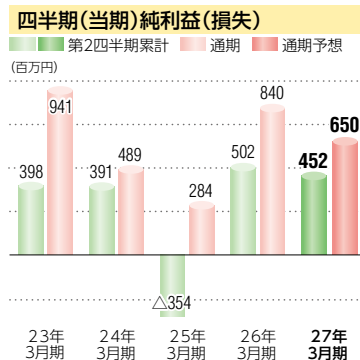
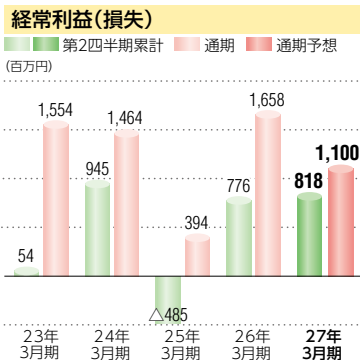
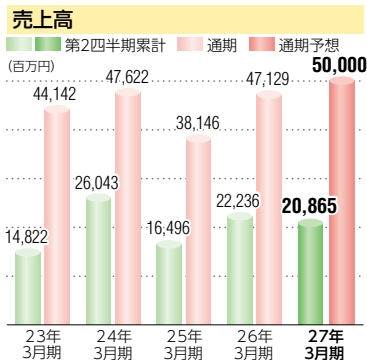
9 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億47百万円や、無形固定資産の取得による支出1億12百万円などにより、2億65百万円の支出となりました。

10 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少29億58百万円などにより、32億92百万円の支出となりました。

財務ハイライト



会社概要 (平成26年9月30日現在)

会社名	平田機工株式会社	役員	代表取締役社長	平田 雄一郎	常勤監査役	小川 克眞
会社設立	1951年12月29日		代表取締役副社長執行役員	橘 勝義	監査役	村田 邦夫
資本金	2,633百万円		取締役執行役員	田中 敏治	監査役	山田 昭
従業員数	1,983名(連結)		取締役執行役員	安高純一郎	監査役	鳥巢 宣明
業務内容	各種生産システム、産業用ロボットおよび 物流関連機器等の製造ならびに販売		取締役執行役員	藤原 五男		
本社所在地	東京都品川区戸越3丁目9番20号		取締役執行役員	平賀 靖英		
			取締役執行役員	本郷 仁基		
			取締役執行役員	黒田 健治		
			取締役執行役員	市原 雄一		
			取締役	坂本 広徳		
			社外取締役	雀部 博之		

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

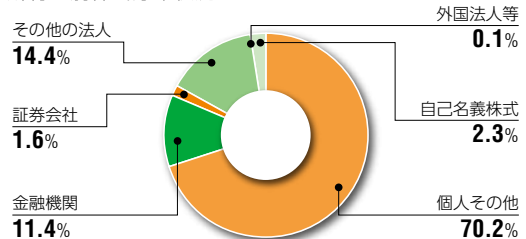
- 発行可能株式総数 37,000,000 株
- 発行済株式総数 10,756,090 株
- 株主数 2,518 名

■大株主の状況

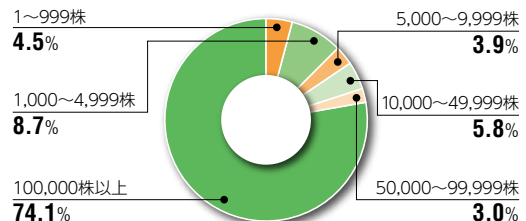
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
平田機工社員持株会	850,510	8.10
平田 雄一郎	582,800	5.55
SMC株式会社	500,000	4.76
平田 宏之	464,972	4.43
株式会社肥後銀行	456,000	4.34
平田 満	385,629	3.67
平田 正治郎	321,500	3.06
平田 滋夫	306,044	2.91
平田 得好	302,462	2.88
日本梱包運輸倉庫株式会社	272,400	2.59

上記のほか、当社が保有している自己株式が249,553株あります。
持株比率は自己株式を控除して計算しております。

●所有者別株式分布状況



●所有株数別株式分布状況



株主メモおよびその他のIR情報

株主メモ (株主のご案内)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 ※期末配当のみとさせていただきます。
定時株主総会	毎年6月開催
単元株式数	100株
証券コード	6258
上場金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	<郵便物送付先> 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 <電話照会先> 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	当社のホームページに掲載します。ただし、事故 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経 済新聞に掲載して公告します。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

その他のIR情報

当社ホームページの個人投資家向けのページには、当社の事業内容、業績の推移、あゆみなどさまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

■ 平田機工株式会社ホームページ



<http://www.hirata.co.jp/>

■ IR情報



<http://www.hirata.co.jp/ir/>

- IR情報に関するお問い合わせ先
平田機工株式会社 管理本部 総務部 IR・広報室

TEL 096-272-5558

FAX 096-272-3618

E-mail hirata_info@hirata.co.jp

平田機工株式会社

■ 本社

〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9-20
TEL.03-3786-1226 FAX.03-3786-1264

■ 熊本本部

〒861-0198 熊本県熊本市北区植木町一木111
TEL.096-272-0555 FAX.096-272-7901